

寿都町民の皆様へ大竹からのお願い

手を上げる前に青森県東通村を知ってほしい！

青森市 大竹整形外科 院長 大竹進

寿都町は 10 月 8 日に核のごみ文献調査を判断する予定だ。町民の皆様には最終判断の前に青森県の東通村のことを知ってほしい。交付金をもらっても明るい未来は見えてこない。

泊原発と目と鼻の先にある寿都町だが、これまでは「電源立地地域対策交付金」が 1 円も入っていない。町の財政は厳しく文献調査の 20 億円が必要だという。

寿都町の人口は減少しており、2020 年 8 月末で、2,907 人、2012 年に比べて 13% 減っている。しかし、20 年度の一般会計予算額は、これまでの補助金による観光施設整備などで 51 億 8200 万円と 8 年前の 1.5 倍に膨らんだという。

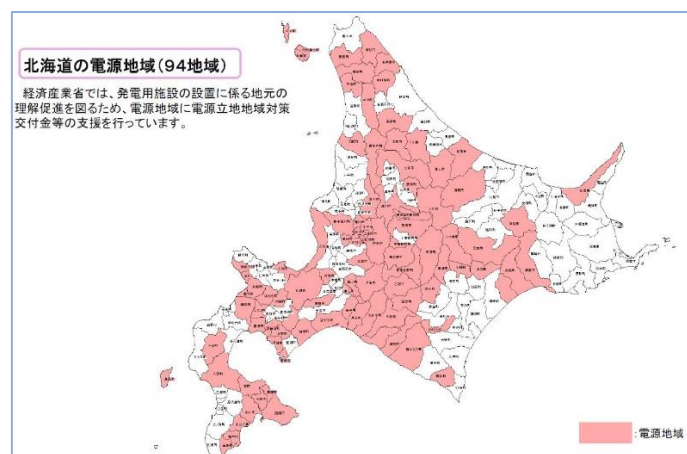
人口規模からいって予算額は「適正」なのだろうか？また、医療、介護、福祉に一般財源から 3 億 2 千万円が繰り入れられ、財政を圧迫している。寿都診療所の運営に 1 億 5 千万円、国保と後期高齢者保険に 8 千万円、介護保険に 7 千万円、老人福祉施設に 2 千万円を繰り入れている。

町の医療をどうするか、もしヒントを探すなら青森県佐井村のことを調べてほしい。佐井村は最小限の支出で無医村を解消し、新しい挑戦を続けている。

|         | (千円)    |
|---------|---------|
| 寿都診療所運営 | 152,422 |
| 国保      | 46,297  |
| 後期高齢者   | 31,088  |
| 介護保険    | 70,022  |
| 老人福祉入所  | 18,939  |
|         | 318,768 |

## 泊原発周辺の町村がもらっている「電源立地地域対策交付金」について

経済産業省では、発電用施設の設置に係る地元の理解促進を図るため、電源地域に電源立地地域対策交付金等の支援を行っている。北海道には交付金が配られる 94 の電源地域があるが、寿都町は対象になっていない。(原子力発電所の他に、水力、火力、地熱発電も対象)



現在公表されている関係町村別の交付金を集計した(2016~2018年までの3年間)。泊村 16 億 6 千万円、神恵内村 2 億 5 千万円、岩内町 8 億 1 千万円で、2020 年 8 月末の人口と世帯数で割って、一人当たり、1 世帯当たりの交付金額を計算した。泊村で 105 万円、神恵内村 31 万円、岩内町で 6 万 7 千円だ。

電源立地地域対策交付金 (円)

|              | 泊村            | 神恵内村        | 岩内町         | 寿都町       | 東通村           | 佐井村         |
|--------------|---------------|-------------|-------------|-----------|---------------|-------------|
| 2016~18 交付金額 | 1,660,992,093 | 253,669,000 | 811,634,196 | 0         | 1,818,731,000 | 252,881,000 |
| 1人当          | 1,051,261     | 308,225     | 67,127      | 0         | 291,837       | 131,026     |
| 1世帯当         | 1,881,078     | 542,028     | 121,575     | 0         | 641,075       | 267,882     |
| 10億円 1人当     | 632,911       | 1,215,067   | 82,706      | 343,997   | 160,462       |             |
| 2020/8/31 人口 | 1,580         | 823         | 12,091      | 2,907     | 6,232         | 1,930       |
| 世帯           | 883           | 468         | 6,676       | 1,661     | 2,837         | 944         |
|              |               |             |             |           | (千円)          |             |
| 一般会計         |               |             |             | 5,182,000 | 7,126,000     | 2,781,502   |

寿都町が狙うのは 20 億円だが、実際に町村に交付されるのは半分の 10 億円程度ともいわれる。10 億円が交付された場合、寿都町民ひとり当りは 34 万 4 千円になる。核のごみは 10 万年間地下に眠る予定だが、「初回に限り半額」でもあるまいし「妥当な金額」なのだろうか。

先月誕生した「菅内閣への評価」を「ヤンキーな政治」から「やくざな政治」と評した人がいる。文献調査に食いついたら、やめるのには多くのエネルギーが必要になることは間違いがない。「やくざな狙い」に引っかかったら、2 年間だけで原発マネーを「食い逃げ」できるはずはない。ならば、子ども、孫たちの世代まで原発マネーに頼るのか？想像力を広げてほしい。

### 原発マネーに頼ってきた青森県東通村

3.11「フクシマ」以後、「核で明るい未来」のはずだった立地自治体の夢は幻に終わろうとしている。

原発がある青森県東通村(人口 6,232 人)の 20 年度一般会計予算は 71 億 2,600 万円と前年より 13%縮小した。原発新規建設は中断し再稼働の見通しも立たず、財政状況は厳しい。原発マネーで楽になるどころか「台所は火の車」が続いている。東通村の場合、3 年間の交付金は 18 億 2 千万円、一人当たり 29 万円だ。

原発マネー依存症になると、新しい原発を作り続けないとお金が不足する。今年度は東京電力や東北電力などにおねだりをして 6 億円の寄附を予定して、何とか予算が組めた状況だ。原発マネーで拡大した財布は、すぐにダウンサイジングはできずに、「ほら貝に入ったヤドカリ状態」は続く。



(東通村役場と交流センター)

役場前の「ひとみの里住宅団地」は分譲中だが、売れずに空き地が続く。明るい未来が消えかけている東通村を見て、最終判断をしてほしい。

役場前の「ひとみの里住宅団地」は分譲中だが、売れずに空き地が続く。明るい未来が消えかけている東通村を見て、最終判断をしてほしい。